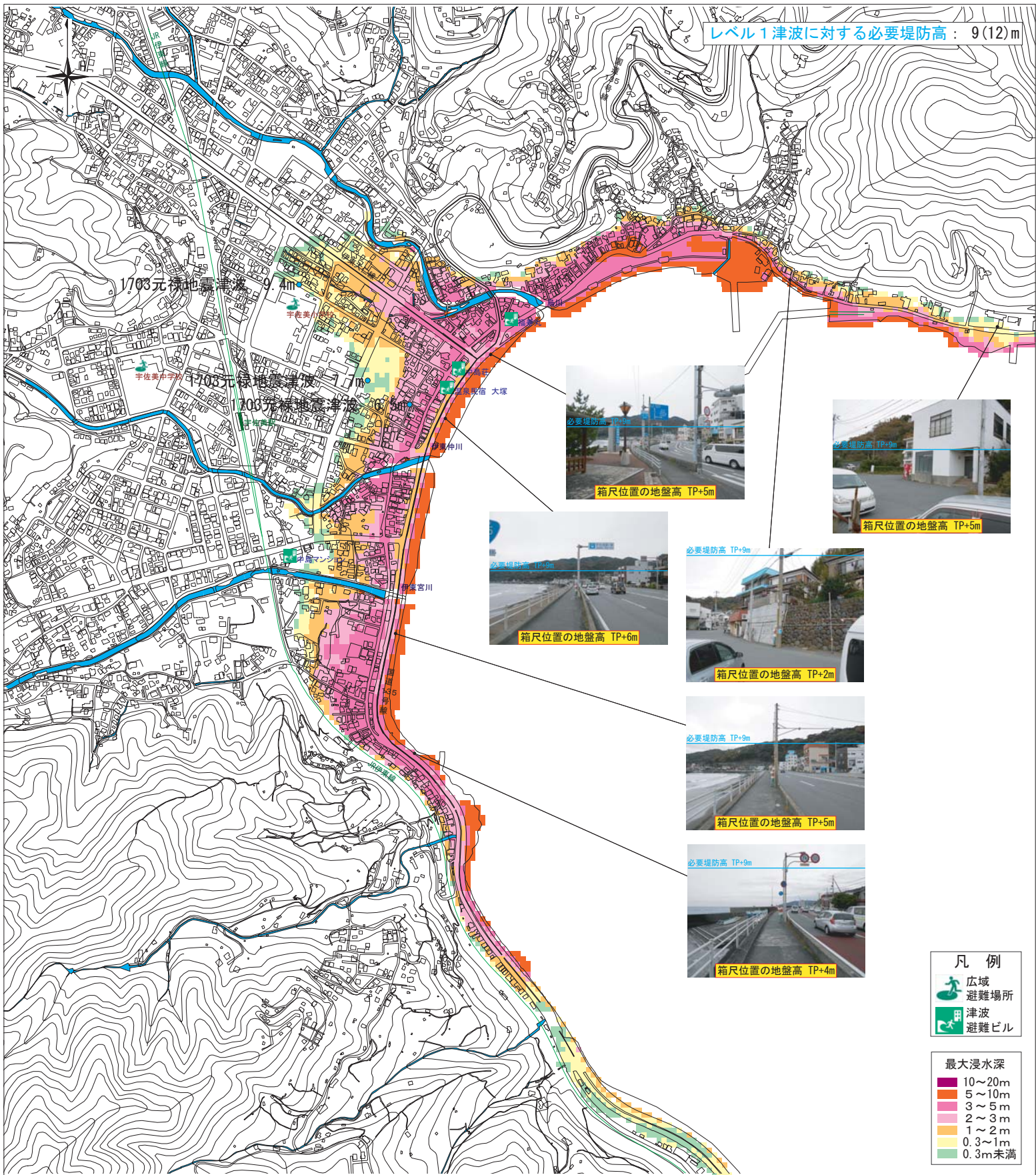


# 宇佐美地区 地区協議会用参考図

レベル1津波に対する必要堤防高：9 (12) m



**凡例**

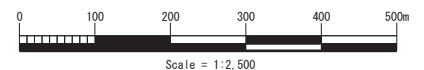
- 広域避難場所
- 津波避難ビル

**最大浸水深**

- 10~20m
- 5~10m
- 3~5m
- 2~3m
- 1~2m
- 0.3~1m
- 0.3m未満

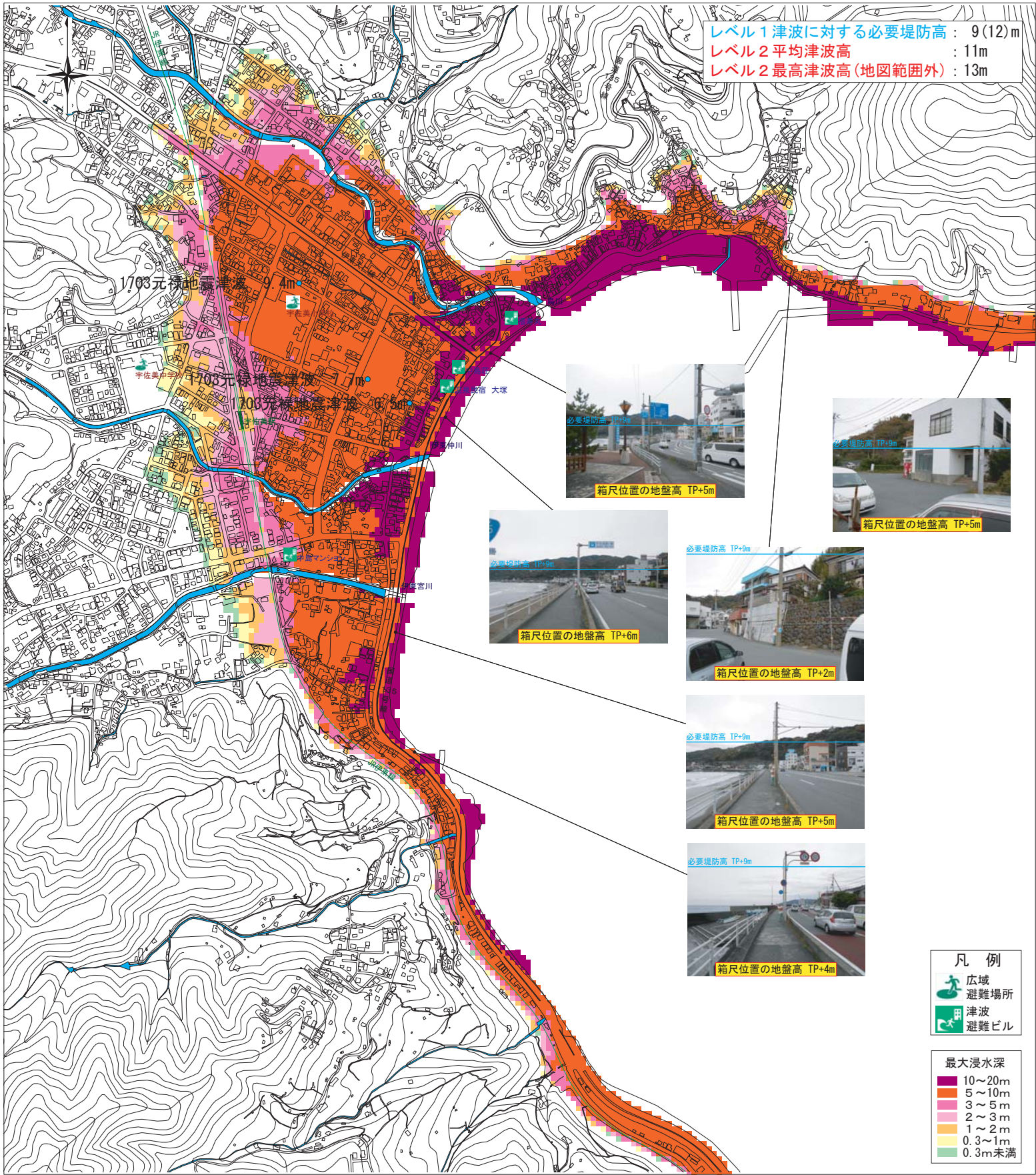
## 大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生頻度は200~400年と推定。  
過去の津波の典拠：津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）  
レベル1津波に対する必要堤防高の（）は地域海岸内に港湾や漁港等の防波堤等が存在することによる減衰効果や隅角部等での津波の収斂により津波高の変化が確認できるために細分して設定した区間のレベル1津波に対する必要堤防高です。  
この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。  
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第361号）



# 宇佐美地区 地区協議会用参考図

レベル1津波に対する必要堤防高：9(12)m  
 レベル2平均津波高：11m  
 レベル2最高津波高(地図範囲外)：13m



- 凡例
- 広域避難場所
  - 津波避難ビル

最大浸水深

10~20m
5~10m
3~5m
2~3m
1~2m
0.3~1m
0.3m未満

## 相模トラフ沿いの最大クラスの地震(レベル2)最大浸水深図(m)

レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。

過去の津波の出自：津波痕跡データベース(東北大学・原子力規制庁)

レベル1津波に対する必要堤防高の( )は地域海岸内に港湾や漁港等の防波堤等が存在することによる減衰効果や隅角部等での津波の収斂により津波高の変化が確認できるために細分して設定した区間のレベル1津波に対する必要堤防高です。

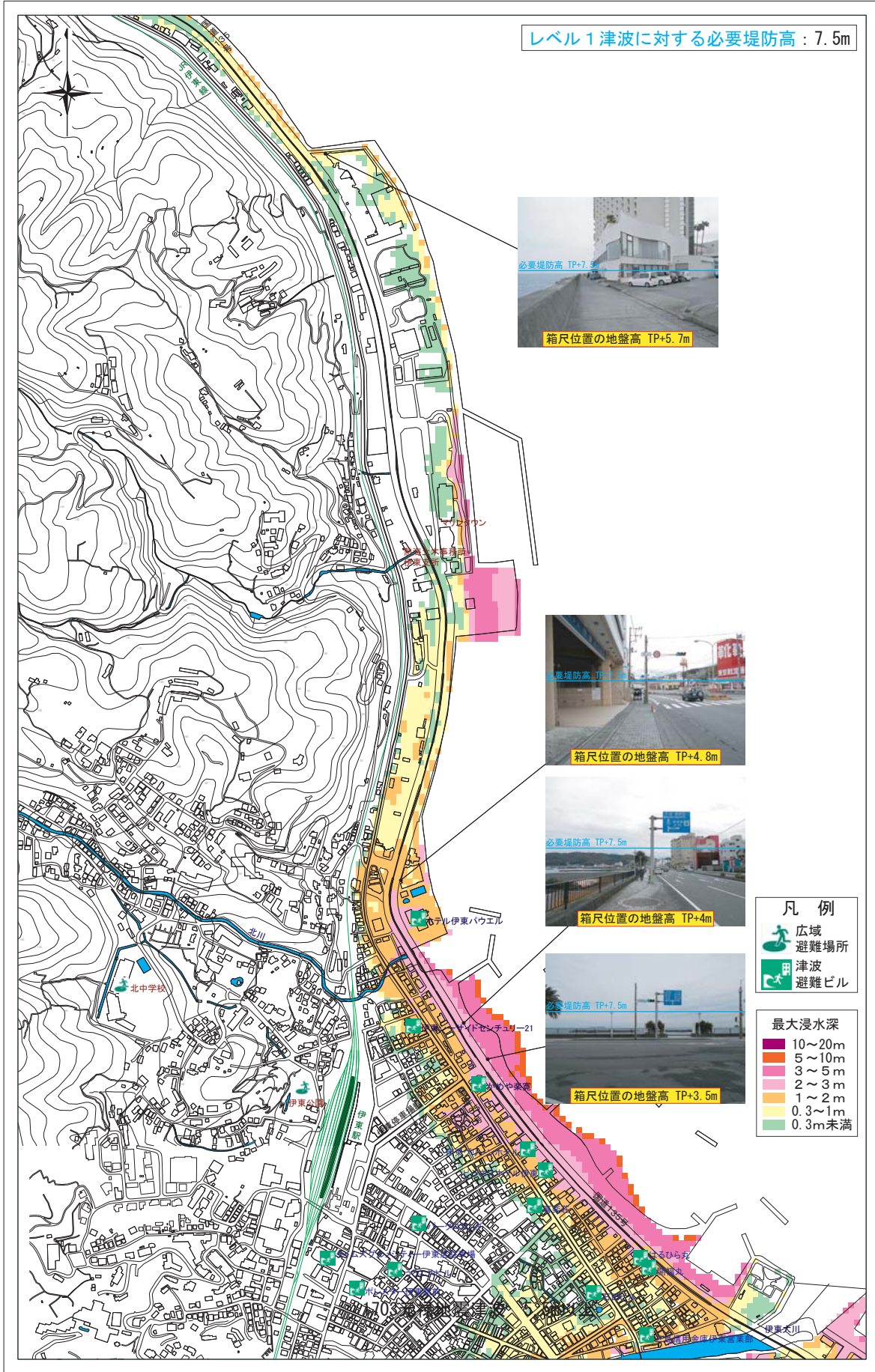
この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。(承認番号 平26情使 第861号)



Scale = 1:2,500

# 湯川地区 地区協議会用参考図



レベル1津波に対する必要堤防高：7.5m



**凡例**

- 広域避難場所
- 津波避難ビル

**最大浸水深**

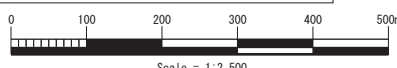
- 10~20m
- 5~10m
- 3~5m
- 2~3m
- 1~2m
- 0.3~1m
- 0.3m未満

## 関東大震災被災状況

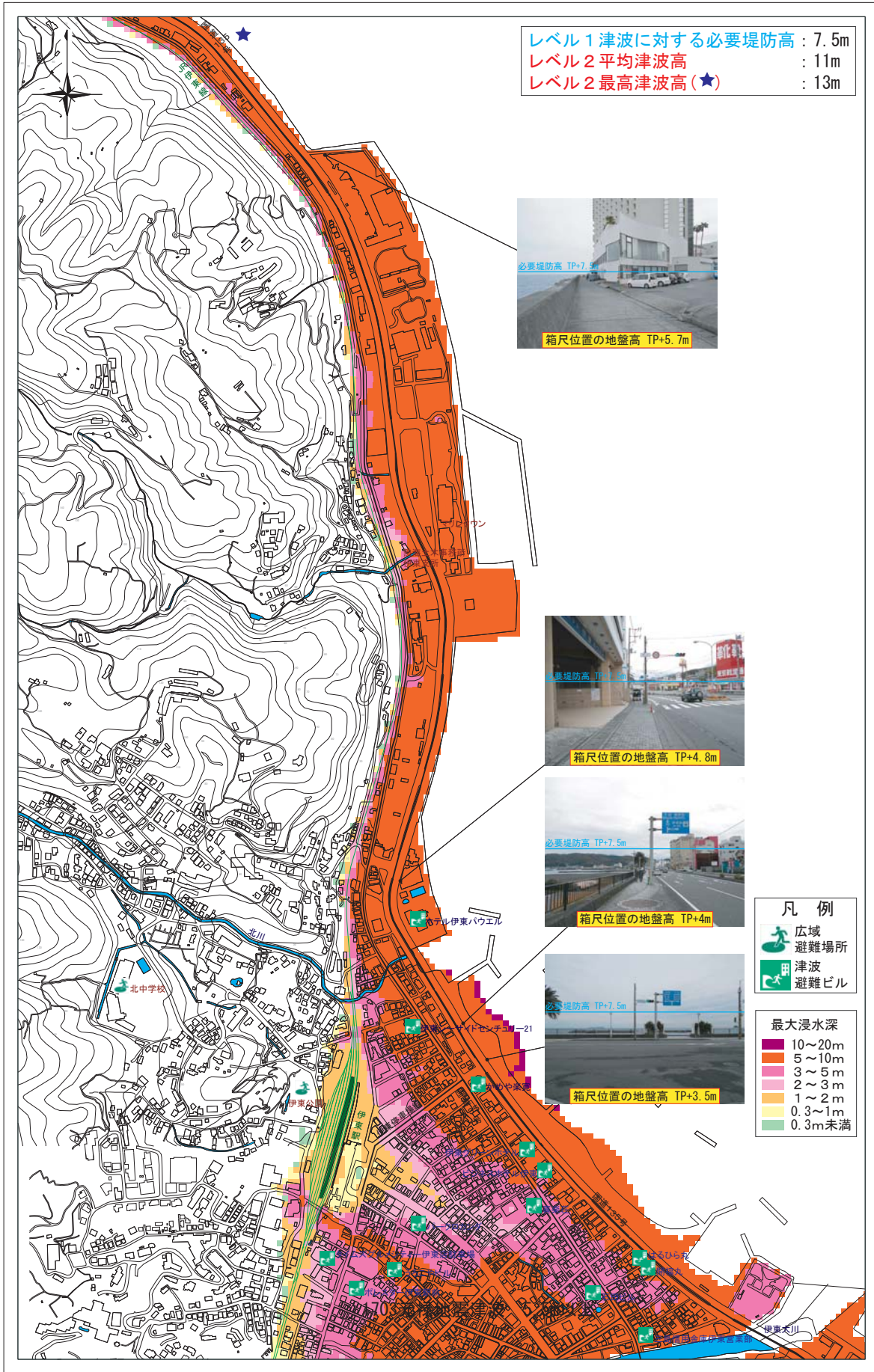


### 大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生頻度は200~400年と推定。  
この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。  
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）



# 湯川地区 地区協議会用参考図



## 関東大震災被災状況

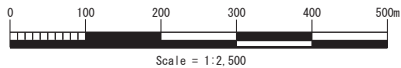


### 相模トラフ沿いの最大クラスの地震（レベル2）最大浸水深図（m）

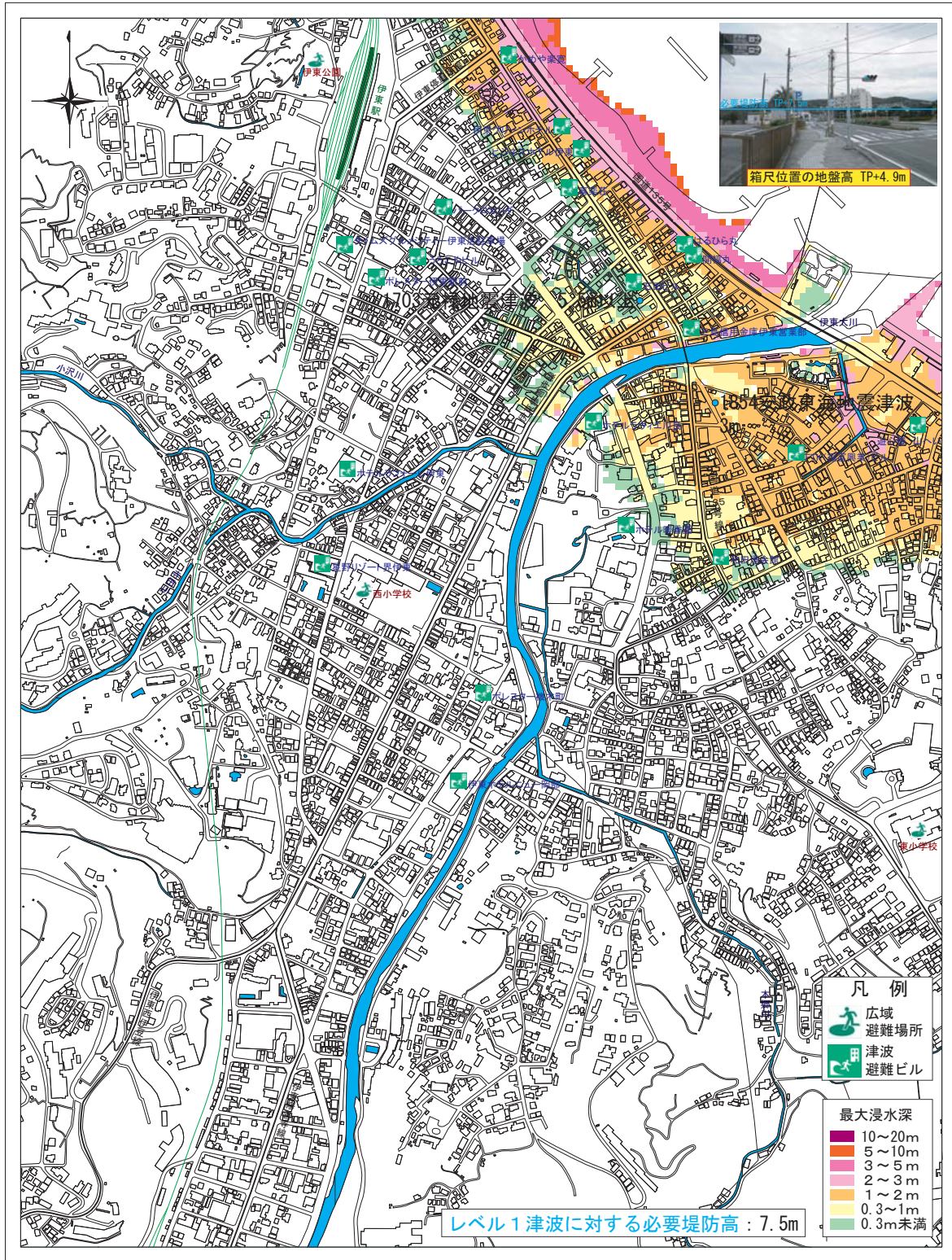
レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）



# 松原、岡地区 地区協議会用参考図



## 大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生頻度は200～400年と推定。

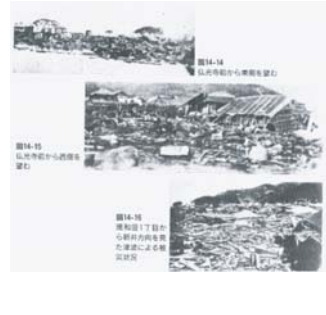
過去の津波の出典：津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

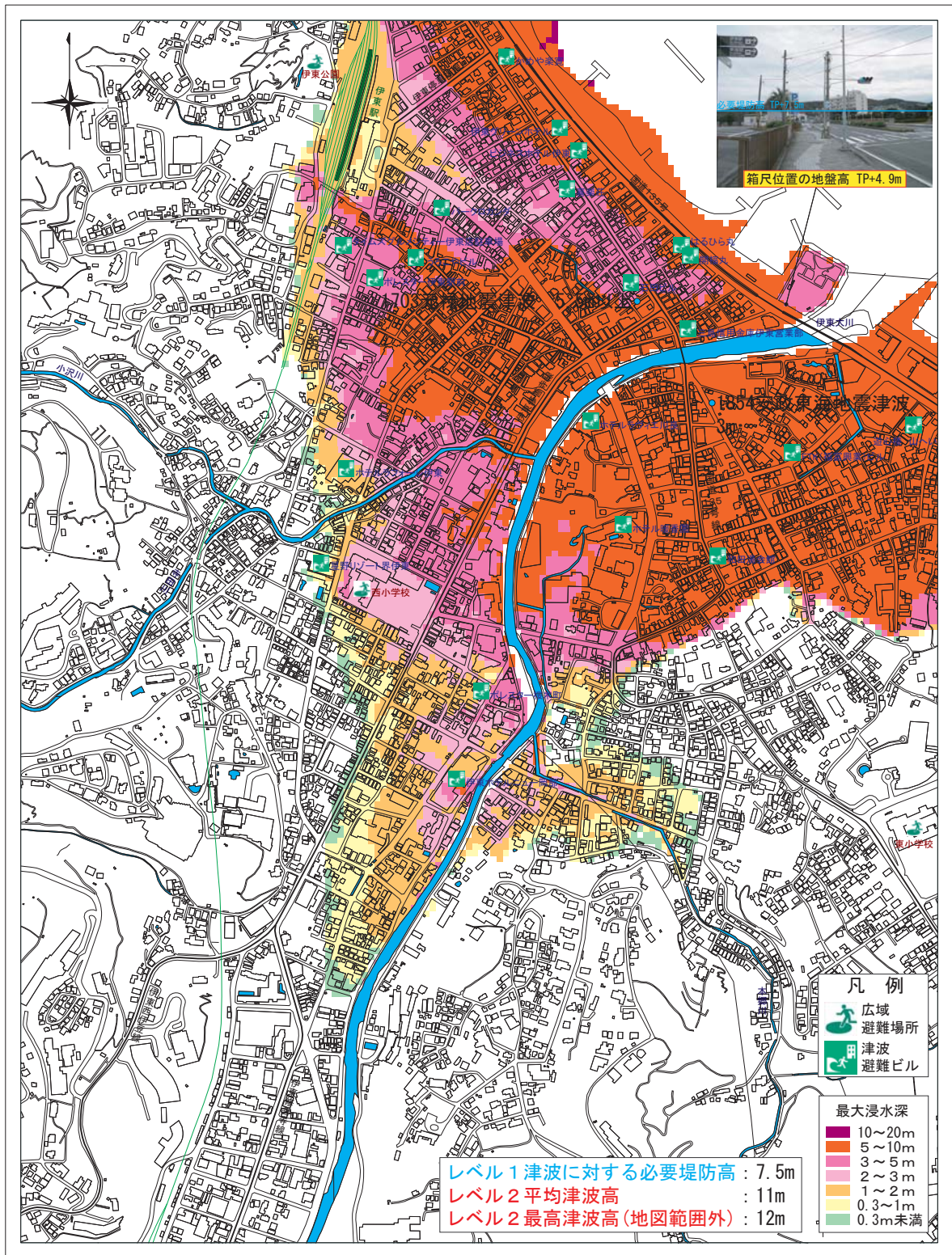


Scale = 1:2,500

## 関東大震災被災状況

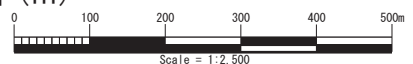


# 松原、岡地区 地区協議会用参考図



## 相模トラフ沿いの最大クラスの地震（レベル2）最大浸水深図（m）

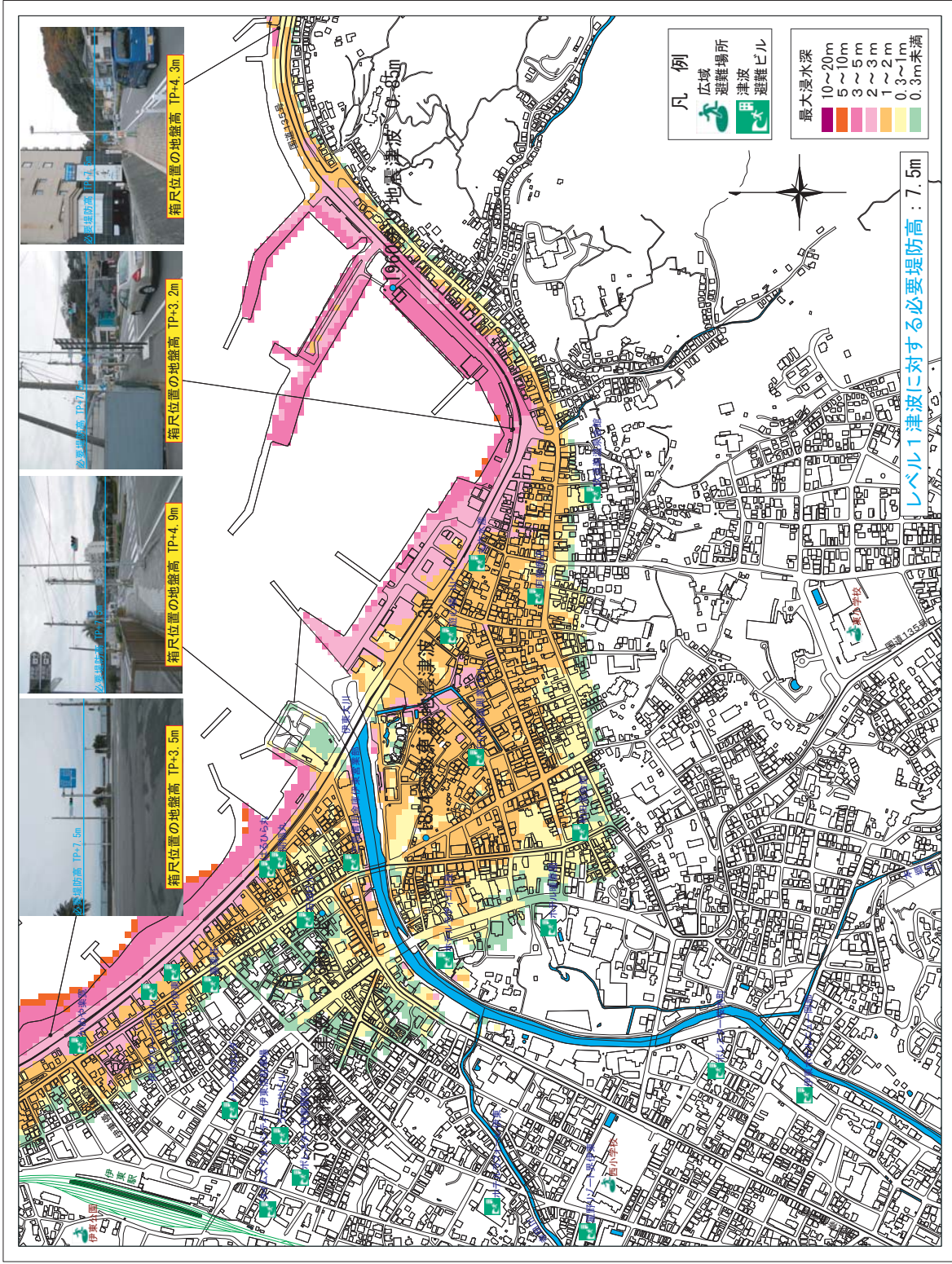
レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。  
 過去の津波の出典：津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）  
 この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。  
 この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）



## 関東大震災被災状況



# 松原、玖須美、岡、新井地区 地区協議会 参考図



## 関東大震災被災状況

第1巻 関東大震災



図14-6 瓦葺家の惨状

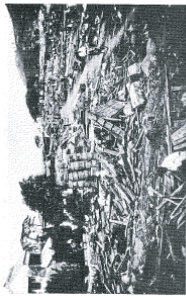


図14-7 板張りの洋館被災状況

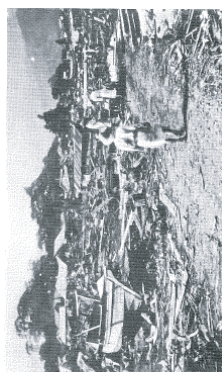


図14-8 茨城県内の震災被災状況



図14-9 伊豆半島河口付近の様子



図14-14 日光市街から東郷を望む



図14-15 日光市街から西郷を望む

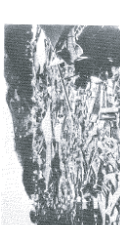
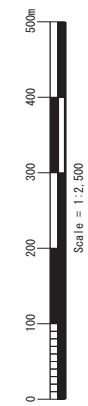


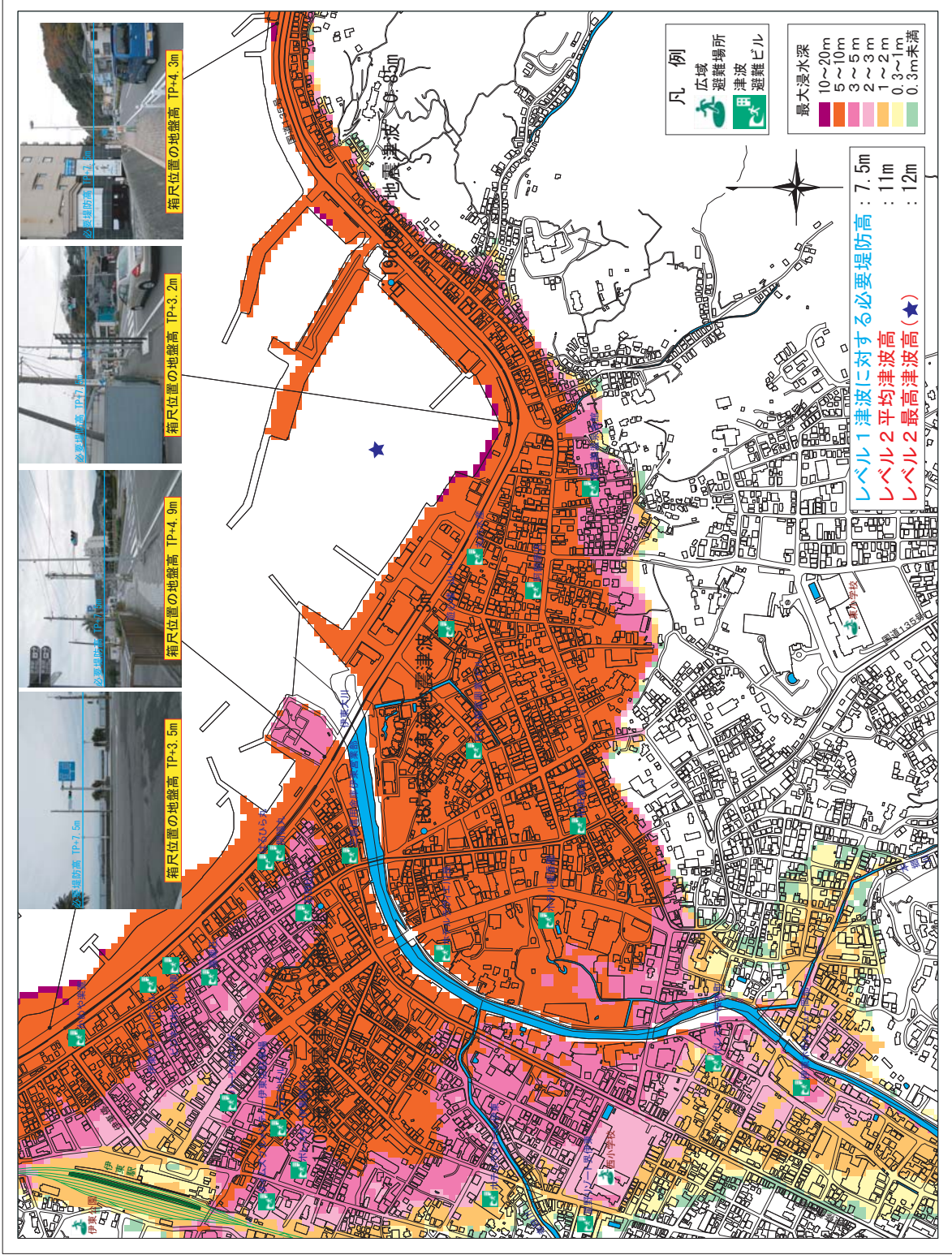
図14-16 黒川町丁目から新井方向を望む被災状況



## 大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生頻度は200～400年と推定。  
過去の津波の典拠：津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）  
この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。  
この地図の作成に当たっては、国土地理院基の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

# 松原、玖須美、岡、新井地区 地区協議会参考図



相模トラフ沿いの最大クラスの地震（レベル2）最大浸水深図（m）

レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。  
 過去の津波の出版：津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）  
 この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基礎地図情報を重ね合わせた参考図です。  
 この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

## 関東大震災被災状況

第1部 関東大震災



図14-6 瓦葺家の惨状



図14-7 瓦葺家の津波被災状況



図14-8 安房郡町の津波被災状況。崩壊した建物の瓦が周囲に散らばる被災状況。



図14-10 伊勢川河口付近の様子



図14-14 山光寺前から東側を望む



図14-15 山光寺前から西側を望む



図14-16 黒田町丁目から新井方向を望んだ被災による高浸水深